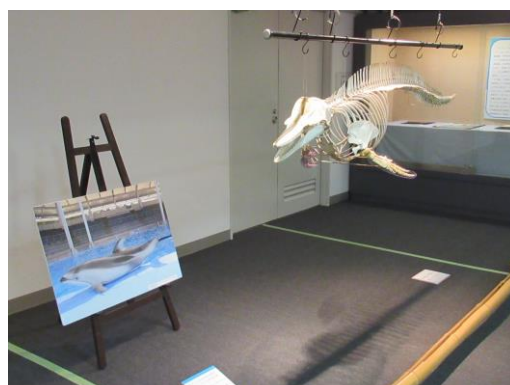


佐渡博物館

企画展「クジラから見る佐渡人と海文化」

開催期間：2022年7月23日（土）～2022年10月2日（日）



【企画展の内容・目的】

- 佐渡とクジラは古来より関係性が深い。地質学や考古学、民俗学といった様々な分野でクジラを通して佐渡の人々や海とのかかわりを深く考える。佐渡におけるクジラ文化と歴史について学ぶことで、人々の生活と海の関わりを理解し、身近にある海を大事にする意識を醸成する。
- 新種のクジラ化石を通し、佐渡が誕生してから現在までの地域環境の変遷を知り、海について関心を持つ機会とする。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2022年7月23日（土）～2022年10月2日（日）

■開催場所：佐渡博物館 1階企画展示室

■入場者数：2071人



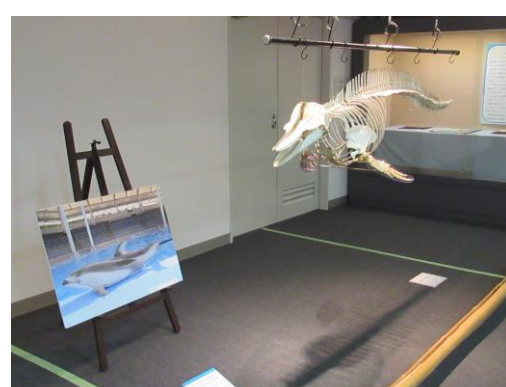
佐渡博物館 ロビー



企画展会場 入口

① クジラって魚なの？

イルカの頭骨や牙などの展示から、クジラといっても一概でなく、海にいながら魚でないこと、鳴音を出してコミュニケーションをとっていることなどを説明した。イルカがクジラの仲間であることに驚く意見があった。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

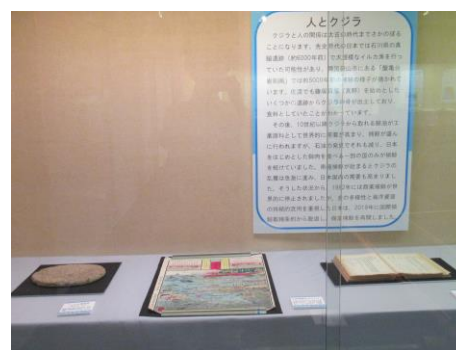
②クジラの進化と佐渡島の誕生

佐渡で多く発見されているクジラ骨の化石やクジラとともに棲息していた生物の化石から、佐渡が大陸の一部であった時代から浅い海の時代を経て深い海に沈み、隆起して今の佐渡になった過程を示した。クジラの化石があることで佐渡が海の底にあったということが実感でき、驚いたという声があった。



③クジラー海からの恵みと佐渡の人々

佐渡の人々とクジラの関係は、遺跡からクジラの脊椎骨が出土している縄文時代からたどることができ、各時代に海に囲まれた佐渡ならではの資料（クジラが寄り付いた際に描かれた掛軸やクジラ供養塔など）が多く存在する。佐渡とクジラの関係は長く深いものであることに驚いたという声が多かった。



④日本のクジラ食文化

新潟のクジラ食「鯨汁」や最後のクジラ竜田揚げが出た佐渡の小学校の給食の写真、鯨を販売して学校の建設費をまかない、「くじら学校」と呼ばれる上越市柿崎区の下浜小学校のエピソードなどを展示した。「懐かしい」「給食を食べてみたいと思いました」などの声が寄せられた。



【来館者の声】

- 海への関心が高まりました。歴史が好きなのですが、現代への視点ももつことができました。
- 海はまだ知られていないことがたくさんあることを実感しました。
- 海にごみをすててくじらが食べてしまうということを見て、そういうことに気をつけてほしいと思いました。
- いろいろな角度からクジラについて取り上げて下さり、佐渡とクジラと人と生活についてとてもおもしろく学びました。
- クジラやイルカの生態について詳しく学ぶことができて良かった。

2. 関連事業の内容

■解説会・講演会 新種ツチクジラについての解説会・講演会

【開催日時】2022年8月20日・9月17日・10月1日

①10:00 ②12:00

【開催場所】佐渡博物館 企画展示室

【参加者数】55名

(8月20日38名・9月17日12名・10月1日5名)

●佐渡博物館学芸員・ジオパーク推進室の学芸員による展示解説会。化石や古文書、イルカの骨格、クジラ煮缶詰など多岐にわたる展示を学芸員が解説することにより、海やクジラに対する理解を深めてもらい、満足度を高める。



佐渡の大地の変動と化石について



イルカ全身骨格について



新種ツチクジラについて



人びとがクジラをいかに利用してきたか

自然系・文化系の学芸員による展示解説会で、佐渡と海の関わりをさまざまな角度から伝え、海やクジラに対する理解、企画展に対する満足度を高めることができた。大地の記憶としての化石、歴史のなかの発掘品、古文書にあらわれるクジラ、マリニピア日本海様からお借りしたイルカの全身骨格やクジラの頭骨、クジラ肉の利用など、解説を聞くことでさらに分かった、身近に感じられたという声が寄せられた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

○佐渡の海にクジラがいてツチクジラが発見されたことなど、いざ考えたことのない世界を知れて楽しめました。展示はどれも面白いです。

○佐渡は歴史的にも文化的にもクジラとの関わりがとても深いことがわかりました。クジラがこれからも生息できるよう、環境問題について考えなければと思いました。

■ワークショップ「骨を発掘しよう」

【開催日時】2022年9月11日（日）①10:30～②13:00～

【開催場所】佐渡博物館企画展示室・ロビー

【参加者数】39人

【実施内容・目的】

- マリンピア日本海様の協力により、イルカの骨を緩衝材の中に埋め、それら参加者が発見し、展示してあるイルカの骨と照合する。最後にすべての骨を並べて全身骨格とし、イルカの生態を学ぶ。
- ふだん見ることのない骨を観察し、陸の生きものと違う海の生きものの構造を理解するとともに、様々な生きものが棲む海への関心を深める機会とする。



佐渡博物館ロビー



イルカの骨を発掘する様子



展示室で全身骨格と照合



ロビーで講師と答え合わせ

やわらかい緩衝材にイルカの骨をいくつか埋め、それを発掘し、展示室の全身骨格を見ながら照合、ロビーに帰って講師と答え合わせをし、その骨格の説明カードをもらう。最後に大きな布の上にそれぞれの骨を並べ、全身骨格を復原してイルカの骨の構造を学び、海の生きものへの関心を深めることができた。

骨を発見するドキドキ感、照合して合っていたときの喜び、全体像をつかめたときの驚きなど、子どもたちが集中して取り組む様子は、講師のマリンピア日本海の方も驚くほどであった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■関連事業「漂着物アートをつくろう」

【開催日時】 2022年8月27日（土）13:00～15:00

【開催場所】 真野海岸・佐渡博物館

【参加者数】 13人

【実施内容・目的】

- 海岸で漂着物を拾い、漂着物アートをつくる。
ジオパーク推進室指導員より、拾ってきたゴミや貝について詳しく説明を受けたあと、漂着ゴミをつかってクジラをつくるワークショップ。
- 海外からゴミが流れついていること、プラスチックゴミが土にかえられないことの怖さなどを学び、海を漂流するゴミが多種多様であり、環境に影響を与えていることなどを、海をきれいに保つことが緊急の課題であることを実感する機会とする。



真野海岸で漂着物拾い



博物館できれいに洗って選別



講師から漂着物についての解説



工作開始



製作中



靴底とペットボトルがクジラの口に変身

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

普段は素通りしてしまうような海に落ちているゴミを拾い、それを洗って作品をつくりあげること、ゴミも扱い方によって有効活用できることを学び、「海は大事」という言葉は知っているものの実感には遠い中で、どのように大事なのかを感じる体験であったようだ。子どもたちは大人の想像を超えるさまざまな工夫をこらして作品をつくりあげていた。拾ったゴミはほんのひとにぎりであったが、子どもたちと保護者にとっては海についてより深く考えるきっかけとなったようだ。

【来館者の声】

- 海にゴミが多いと感じた。
- 海で漂着物を拾ったことが楽しかった。
- ゴミを使ってアートを作るところが楽しかった。

■関連事業：子ども向けワークシート作成

【開催日時】企画展会期中

【開催場所】佐渡博物館

【参加者数】106 名の実施を確認（窓口での答え合わせを行った人数）

【実施内容・目的】

- 企画展示室の各テーマごとに、解説や資料をよく読むことで答えが導き出せる子ども向けのクイズを設定し、展示室の入り口で配布した。

くじら博士になろう！
クイズワークシート！

おへやの中に答えがあるよ、さがしてみよう！

第1問
クジラに一番近いと言われている動物は？
こたえ _____

第2問
新種ツチクジラの学名はペラルディウス
〇〇〇〇〇？
こたえ _____

第3問
佐渡でさいごに食べられた給食のクジラ
料理のメニューはなに？
こたえ _____

第4問
ハクジラのなかまが音で周囲を確認
することをエコー〇〇〇〇〇〇？
こたえ _____

全部できたら受付に持って来てね！

海の科学館 日本海洋科学博物館
佐渡博物館
サポート

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT

ワークシート

受付で答え合わせをして正解のはんこを押し、不正解の場合はヒントを出してもう一度展示室をまわり、答えを見出すことで、展示内容のより深い理解、学びにつなげる。ワークシートを持ち帰ってもらうことで、佐渡の海やくじらに対して振り返るきっかけとした。

【事業全体のまとめ】

クジラを通して佐渡島と海との関わりを考えるきっかけとなり、島における海と人々の共存について深く知ってもらうよい機会となった。

クジラの原寸大の横断幕の展示でクジラの大きさを実感したり、DVD でイルカやクジラの泳ぐ姿を見たり、声を聴いたりする中で、遠い存在だったクジラの実態を多くの方に感じてもらうことができた。

クジラを様々な角度から見ることで海の偉大さ・不思議さを知り、海の大切さを再確認するきっかけとなったという声が多かった。

「漂着物アート」「骨を発掘しよう」のワークショップではどちらも子供たちが熱心に取り組む姿勢が顕著であり、講師の水族館の方も驚くほどであった。海を身近に感じることができる、島内ではなかなかできない貴重な体験であった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 佐渡ジオパーク推進協議会	新種ツチクジラに関する講演会等開催
2. 新潟市水族館マリニピア日本海	化石等の展示資料借用、ワークショップ講師派遣

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 佐渡博物館ホームページ	佐渡博物館企画展「クジラから見る佐渡人と海の文化」の開催について（7月15日）
2. プレスリリース	佐渡博物館企画展「クジラから見る佐渡人と海の文化」開催のお知らせ（7月22日）
3. 佐渡市公式ライン、フェイスブック	・企画展「クジラから見る佐渡人と海の文化」にお越しください！（7月22日） ・佐渡博物館「クジラの展示解説会」参加者募集中！（8月31日）
4. 佐渡市ケーブルテレビ文字放送	企画展「クジラから見る佐渡人と海の文化」開催中！（7月27日～10月2日まで放送）
5. 新聞記事	読売新聞：クジラ化石は世界最古（8月16日） 新潟日報：クジラの制作 美化学び（9月7日） 毎日新聞：ツチクジラ新種頭骨化石を公開（9月19日）

以上